

第6回文京区アカデミー推進協議会 議事録

日 時	平成28年1月18日(月) 18:30~20:30
会 場	文京シビックセンター24階 文京区議会 第一委員会室
委 員	会 長 水越 伸 (東京大学教授)
	副会長 久松 佳彰 (東洋大学教授)
	委 員 青木 和浩 (順天堂大学准教授)
	委 員 野口 洋平 (杏林大学准教授)
	委 員 田中 雅文 (日本女子大学教授)
	委 員 田中 ひとみ (文京区女性団体連絡会 広報部長)
	委 員 鴻瀬 太郎 (小学校PTA連合会 会長)
	委 員 三浦 徹 (中学校PTA連合会 理事)
	委 員 柳澤 愈 (文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア講座企画委員会 委員長)
	委 員 塩見 美奈子 (文京区生涯学習サークル連絡会 会長)
	委 員 井上 充代 (文京区スポーツ推進委員会 副会長)
	委 員 田辺 武之 (文京区体育協会 副理事長)
	委 員 高澤 芳郎 (シエナ・ウインド・オーケストラ 事務局長)
	委 員 牧野 恒良 (公益社団法人宝生会 事務局長)
	委 員 白井 圭子 (文京区観光協会 副会長)
	委 員 荒木 時雄 (公益財団法人東京観光財団 常任理事)
	委 員 佃 吉一 (公益財団法人アジア学生文化協会 常任理事)
	委 員 森岡 隆 (文京区国際交流フェスタ実行委員会 委員長)
	委 員 小林 博 (区民公募委員)
	委 員 増田 純 (区民公募委員)
	委 員 金坂 吉雅 (区民公募委員)
	委 員 黒木 美芳 (区民公募委員)
	委 員 黒田 千恵子 (区民公募委員)
	委 員 松井 良泰 (公益財団法人文京アカデミー 事務局長)
	委 員 小野澤 勝美 (アカデミー推進部長)
欠 席	委 員 金輪 精梧 (文京区町会連合会 副会長)
	委 員 上田 武司 (文京区商店街連合会 副会長)
	委 員 鈴木 秀昭 (東京商工会議所文京支部 事務局長)
	委 員 天野 亨 (文京区心身障害者福祉団体連合会 理事)
	委 員 春田 孝二郎 (文京区高齢者クラブ連合会 副会長)

	委員	平井 宥慶	(文京区民生委員・児童委員協議会会長)
	委員	三谷 規子	(文京区青少年委員会)
事務局		山崎 克己	(アカデミー推進部アカデミー推進課長)
		熱田 直道	(アカデミー推進部観光・国際担当課長兼オリンピック・パラリンピック推進担当課長)
		細矢 剛史	(アカデミー推進部スポーツ振興課長)
		福田 昭正	(アカデミー推進部アカデミー推進係長)
		山本 恵美子	(アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック調整担当)
	支援事業者	株式会社創建	大谷・氏原
資料	資料第1号	「文京区アカデミー推進計画」素案 意見募集の結果	
	資料第2号	文京区アカデミー推進計画(案)	
	資料第3号	アカデミー推進計画の評価方法について(案)	

1 開会

水越会長 第6回の推進協議会になる。今日が最後となる。基本的にはこの協議会で検討した案を改めて検討し、ご意見をいただく。前回の協議会以降、パブリックコメントや区民説明会が実施されているので、そこでの意見とそれを踏まえた修正内容を報告いただく。評価方法についても説明をいただいた後、委員の皆さんから感想を頂きたい。

2 「文京区アカデミー推進計画」素案 意見募集の結果報告

パブリックコメントならびに区民説明会の実施状況、ならびに寄せられた意見と区の考え方(案)について説明を行った。

3 アカデミー推進(案)について

4 アカデミー推進計画の評価方法(案)について

アカデミー推進計画(案)について、素案からの修正点について説明を行った。その後、アカデミー推進計画の評価方法(案)について説明を行った。

水越会長 一点だけコメントしておく、評価の枠組みづくりはこの協議会で決定するものではなく、本計画が認められ、来年度から実施していく段階で決めていくことになると思う。今回、検討案を出してもらったかたちであり、その案を来年度に申し送ることになる。ただ、評価の枠組みがあつて、それが決まってから評価委員が集められるべきだと意見を申し上げてきた。来年度早々

には決めることになるので、評価についても意見があれば聞かせてもらいたい。会議に参加しているみなさんに一言ずつ感想などをお聞きしたい。まずは学識委員から話をはじめたいと思う。

青木委員

スポーツ分科会の座長というのは名ばかりで、委員のみなさんや担当からよい意見をいただき、それを落とし込むことができた。文京区と自分のかかわりもみえてきて、区民の動態も見えてきたので、よりよいものができたと思っている。端的にいうと本計画書の26・27ページに記載されている内容だが、スポーツをもうすこし広くとらえようとしていることが特徴だ。スポーツをしていない人を引き出し、スポーツのハードルを下げ、健康づくりも含めて実践していこうと考えている。連携・交流に関しては、地域と学校、子どもと大人、プロと子どもたちなど、様々な場面で連携するなかから交流が芽生え、スポーツがよくなるという風に考えることができた。評価の基準としては、スポーツの参加者や実施率になると思うが、区民が健康であることも指標だと思うので、そう思って取り組んでもらいたい。委員の方たちから忌憚のない意見をいただいたおかげだと思っている。

久松委員

国際交流の座長を務めた。参加された方たちから闊達なご意見・議論をいただき、お礼申し上げます。その結果、前回の計画よりもよいものができたのではないかと思っている。本計画書の66・67ページにあるように、分野別目標を前回の3つから2つに簡素化した。前回は国際理解・交流の機会づくりに分かれていたが、交流をすることで理解が育まれるという概念構成でまとめることができたためだ。これは国際理解と交流をあわせて促進するということがよいことだと思っている。他の分野と比べるとそれほど事業があるわけではない。それは国際交流という分野が様々な場面で行われており、区はそのひとつの場面にすぎないということだと思う。新しい計画のなかではオリンピック・パラリンピックが入ってくるが、それも含め、多様な側面で国際交流という機会が増えてくるのではないかと思う。区内で行われることでも、事業主体には区が入ってこないこともあるだろう。しかし、区民にとっては国際交流の場面になっていくので、それをどのように本計画のなかにフィードバックしていくのかということが今後の課題になると思う。本計画書の11ページでいうと横断的施策が入っていることが重要な視点だと思っている。本計画の内外に国際交流の場面があるので、それらを上手に横断的施策の視点で取り込んでいくことができれば、計画にかかわる自分たちの思いが実現するのではないかと思っている。先ほど、会長から評価について話があったが、評価のための評価になってはいけなし、評価したから十分という態度も適当ではない。評価に基づいて不要なものが淘汰され、新しいアイデアを具体的な施策に落とし込んでいくというようにしてもらいたい。

また、検討案が出されているので、来年度には評価の枠組みが決まることを期待している。

野口委員 観光分野を担当した。観光分野に関しては、アカデミーという言葉にふさわしいのかどうか心配していた。観光がアカデミーという言葉と適合的でないと感じていた委員の方もいたと思うが、完成に近づくにつれ、観光についても熱心に議論していただけたので、そうした感覚は消えていったのかと思う。ほかの市町村だと、観光は大きなテーマだ。経済の観点が多いが、文京区はアカデミー推進計画の枠組みというのが、面白みがある。計画書を見ても質の高い、他の分野とトーンをそろえたものになっていると思う。今回、みなさんと議論した観光の内容の最終的な目標は「観光はアカデミーの分野に適合的だった」と思えるような5年後を迎える、それが観光分野の隠れたテーマだと思っている。オリンピック・パラリンピックや外国人の爆買いなどを生活のなかで見聞きし、実感するようになっている。観光を通じた効果や学び、経験などが、アカデミー計画ならびに区にとって必要だと実感する5年間にしなければいけないと思う。計画が完成した暁には、観光が文京区の重要な要素になっていることを願っている。そういう方向でよい話ができたと感謝している。

田中委員 生涯学習を担当した。わたし自身の関心は、学びをとおしてコミュニティをつくる、地域をつくる、社会を変えていくということだ。それを通じて、また自分が学ぶという、学びと活動が相互に循環するようにとらえていることが多い。現行計画をみると、高度な教養を得ていくことが目的となっているため、23区の生涯学習はそういった目的になるのかと思っていたが、協議会の議論では、ネットワークやコミュニティというキーワードが出てきた。グローバルな社会に向けた視野が委員の皆様の中に強く表れていて、そのようなテーマが今回の計画には還元できたと思っている。当初の自分の関心と、みなさんの関心が重なり合うことで計画ができたと思っている。こういう計画の波及効果が、地域やグローバル化する社会のなかで広がりを持っていければと思う。これからも計画の推進の中で確認していければと思う。

評価表について一点だけ気になっているのは、分野別目標が書かれており、共通目標から見て適切かという流れになっているが、分野別目標と共通目標は関連性があるものなのだが、評価シートはすべての共通目標と関連づけられている。その点は分けていく方がよいのではないかと思う。

松井委員 生涯学習と文化芸術分科会に参加した。生涯学習と文化芸術を現場で実施している立場で出席させてもらっていた。アンケートのなかで満足していない人がその理由として「情報がない」、「興味のあるイベントがない」を挙げているが、そのことに行政としてまた指定管理者として何か対応できないかと

思っていた。今回はワークショップで忌憚のない意見を出し合えたことがよかったと思っている。その結果、情報提供について盛り込むことができた。みなさんの思いが詰まった計画を重く受け止め、実現していきたいと思っている。

黒田委員 生涯学習とスポーツの分科会に参加した。自分の意見も取り入れていただき、このような計画ができたことがうれしく思う。計画書を読む機会となり、学ぶことが多かった。パブリックコメントや説明会の参加者が少ないことは残念だ。もっと多くの方が意見を述べ、その意見を吸い上げていき、それに応えてもらえるということを周知して、計画が実行されることを期待している。

黒木委員 生涯学習・国際交流分科会に参加した。感想だが、スポーツや国際交流、観光にせよ、アカデミー推進の下に入ったことはよいと思う。経済や選手養成といった枠で捉えられてしまいがちだが、よい枠のなかで進められていると思っている。これから計画を実施だと思うが、推進するにあたって確認しておきたいことがある。計画書では「今後実施を検討する事業」が書かれているが、ここで描かれている内容は実際にやるのか。検討するだけになってしまうのではないかと考えている。

事務局 計画の5年間のなかで、推進部としてやっていきたいと思っている事業を記載している。予算の問題もあり、実際にできるかどうか分からないので、このような書き方になっているが、やりたいと思っていることだ。

金坂委員 スポーツ・国際交流分科会に参加した。巻末に用語解説がついていることはよいことだ。ただ用語の右上に※マークで印がついているが、その印の意味が何か分からない。印が最初に出てくるところで、巻末に解説が付いていることを説明しておいたほうがよいと思う。

感想については、協議会に参加し、区にすばらしい資産があることを確認し、ほこらしくなった。区外に住んでいる親戚や友人にPRできることも多いと思うので、今後も取り組んでいきたい。

増田委員 生涯学習・観光分科会に参加した。はじめは生涯学習に関心があったが、観光の分科会の方が楽しくなり、発言させてもらった。ホスピタリティという言葉がはやっているが、区民が本当にそのようになれるとよいと思う。その一方で、観光客のマナーの向上にも取り組んでもらいたい。「おもてなし」と同時に「おじゃまします」という言葉を大切にしてもらいたい。

小林委員 スポーツ・生涯学習分科会に参加した。評価について質問だが、評価基準は基準と規準があって評価ができるのではないか。基準がないと何がAになり、何がBになるが分からず、判断できない。また、規準があると、どの基準に達していれば充分であるのかが分かるので評価しやすいと思った。感想だが、現行計画では前を踏襲するか、大幅に変わるかのどちらかになる

ことがあるが、今回のものは前回のものを受け継ぎながらも新しい時代に合うようにバランスよくまとめられていて、良いものができたと思う。これをいかに浸透させていくのが大事だ。前回計画は有償頒布になっているが、せっかく良いものができたので、ホームページや図書館などで公開し、浸透させていくとよいと思っている。

森岡委員 国際交流・スポーツ分科会に参加した。とてもよくまとめて頂いたと思う。この計画に沿って現場でどのような成果を上げていくのが大事だと思うので、今後もよろしくお願ひしたい。

佃委員 国際交流分科会のみ参加だった。これから文京区は高齢化社会と外国人が増える社会になる。これまで日本が経験しなかった社会に突入する。オリンピック・パラリンピックを契機に加速するが、必ず心理的に変化が起これると思う。それを調整し、区民の日本人が5年後にどのように変化するかということが楽しみでもあり、ドキドキでもある。

荒木委員 観光分科会に参加した。東京都の外郭団体ということもあり、区単体よりも、都全体という立場でもあったので、意見が不適當な場合もあったかと思う。文京区を持つ個々のコンテンツについては高いものがあると改めて感じている。例えば庭園をユニークベニューにするなど今後、大学や庭園といった個々のコンテンツを組み合わせることで、よりよいものになっていくかと思う。

災害の際に言葉が不自由な外国人は災害弱者になる可能性があるという発言をしたが、そのときに助けになるのはやはり地域のコミュニティだろう。これから地域によって時間的な差はあると思うが、外国人が近所を歩くようになると思うので、区内に住み、学ぶ外国人も含めた話し合いができると、新しい文京区につながってくるのかと思っている。具体的なことに携わることができ勉強になった。

白井委員 観光分科会に参加した。日常の業務をこなすということに注力してきたが、この計画策定に関わる中で、自分たちがやっていることが区民にとってどのようなメリットがあるのかということなど、大局的な観点に立つことができた。文京区には文化財が豊富にあり、レベルの高い文化が集積していると思うが、それらを区内外、ならびに外国人にどのように説明していけばよいのかと検討しているところだ。目先のことばかりではなく、大きな目で事業をひとつひとつ行っていきたい。

牧野委員 宝生会から参加していることもあり、文化芸術の分科会に参加させてもらった。ただ、核心に触れる意見が言えなかったことは申し訳なかったと思う。これまで実施してきた事業をみて、自分たちの事業への関わりが少ないと実感したので、宝生会として協力できるものがあれば積極的に関わっていき

いと思っている。

- 高澤委員 シェナ・ウインド・オーケストラの一員として文化芸術分科会に参加した。幅広い分野の人が集まる会に参加できて勉強になった。シビックホールの一 corner を借りて活動しているが、区民にオーケストラがあるということが浸透していないと思っている。こういった計画を策定する場に参画し、どのように出来上がっていくかがよくわかったので、この経験を活かし、どのように発信していくかを考えていきたいと思う。
- 田辺委員 文京区体育協会から参加している。スポーツ分科会に参加した。5分野でみなさんの意見がしっかりと反映されていると思うが、これを担当部署で実行に移されないことになると宝の持ち腐れになると思う。体育協会としても実行に向けスポーツ分野で協力するので、ぜひがんばってもらいたい。
- 井上委員 文京区スポーツ推進委員会から参加している。スポーツ分科会に参加した。自分がスポーツをやっているために気づかない部分があることに気づいた。その点が大変勉強になった。スポーツというと競技スポーツというイメージになってしまうと思うが、新しいスポーツのイメージをつくっていければと思っている。スポーツ推進委員会からも協力していけたらと思う。
- 塩見委員 生涯学習・文化芸術を担当した。みなさんの意見を聞き、生涯学習という枠組みだけではまとめられないことを十分に学ばせてもらった。生涯学習サークル連絡会は設立から50年になるが、いま高齢化が問題になっている。若い方をアカデミー計画や生涯学習に巻き込んでいくことが課題になるのだろうと思う。パブリックコメントや区民説明会は冬の忙しい時期だったので周知しにくかったが、もっと関係団体に呼びかければよかったと反省している。公の機関に意見をいうことには及び腰になってしまうが、意見をまとめていきたいと思っている。
- 区民説明会の意見のなかに文化財の周辺を指定するという意見が見られるが、それについては賛同する。まちづくりという面も含め、個別に指定するのではなく、周辺を指定するとよいと思っている。地方ではエリア全体で指定している例もあるので、文京区でもぜひ検討いただきたい。樋口一葉に関連するエリアの一角だけでも検討してもらいたい。
- 柳澤委員 生涯学習・文化芸術を担当した。立派な計画ができたと思っている。大事なことは着実に実行するということだ。文京区はいまでもよいところに行っていると思うが、本計画を踏まえ、23区のなかでも突出したものになるとよいと思っている。
- 三浦委員 中学校PTA連合会から参加している。文化芸術分科会に参加した。オリンピック・パラリンピックを目の前に国も文化資源を積極的に発信することを奨励しているが、この計画をもって文京区が中心となってってもらいたい

と思っている。中学校PTA連合会の一員として、この案を中学校の方に持ち帰り、子どもたちの明るい未来を築く一助になればと思う。

一点気になったのは、事前に資料を送っていただき読んでくるのだが、当日再度配布する必要はないかと思う。コストもかかることなので、今後検討していただきたい。

鴻瀬委員 スポーツに関わらせてもらい勉強になった。回数は事前の説明よりも多かったのには驚いたが、毎回進捗があり、実のある会だったと思う。「文の京」というテーマで話が進められたとき、勉強のイメージが強く、スポーツは縁遠いのかなと思ったが、議論が進むなかで文京区らしさが出てきた。スポーツの面でも東京ドームなどを活用して文京区らしさを出していければと思う。パブリックコメントなどにもあるように、私がこの会議の冒頭で窓口の一元化について話したが、素晴らしいものができたので、作ったままにせず、世代間の差を超えるためにも、紙の媒体だけではなく世代にあった情報の発信の仕方をし、周知し、地域で活動している人間が情報を発信していくことが重要だ。

田中委員 女性連絡会から参加し、生涯学習を担当させてもらった。普段は個別の事業にかかわっているのですが、大卒の計画を考える機会は大変だったが、勉強になった。今後検討していく事業は予算の関係もあるということだが、ぜひ実現していただきたい。

水越会長 各分野を担当した各課長からも意見を頂きたい。

事務局 細矢 スポーツ分科会に参加し、地域で活躍されている方、スポーツに携わっていない方から、率直な意見をいただき、区民の考えを目の当たりにし、実感できた機会だった。そのような思いを文章にまとめることに苦慮したが、よい感想をいただくことができうれしい。

事務局 熱田 この会議には4月からオリンピック・パラリンピック推進課長として参加してきたが、第4回分科会から観光・国際交流を担当させてもらった。自分も深く理解していないなかで力不足を感じることもあったが、委員のみなさんの活発な議論により、しっかりとした計画ができたと思っている。今後、この計画に基づき事業を進めていくが、ここに書かれていないことでも良いアイデアや情報が出てくると思うので、それらも積極的に取り入れ、進めていきたいと思っている。

事務局 山崎 生涯学習と文化芸術を所管している。反省点としては分科会がハードスケジュールとなったことだ。2つの分科会に参加された方は大変だったと思う。次回計画を策定する際には余裕をもったスケジュールにしたい。今回のことを通じて区民のみなさんに愛着を持っていただけていると実感できた。それを踏まえて事業を実施していきたい。

小野澤委員 区民のみなさんと学識の先生が分科会を通して、こんなに議論を重ねてきた計画は貴重だと思っている。先生方にも区の状況を熟知して取り組んで頂き、また、委員の皆さんも熱心に取り組んでくださったからだと思う。計画を作って満足してしまうことが多いが、実効性に関する意見をいただいているので、これらを実現していきたいと思っている。

熱田から、突発的によい事業は出てくるものだという旨の話があったが、現在、区が行っている目白台の松聲閣の改修工事に熊本県や細川家から注目されるとは思っていなかったので、計画に書かれていなくても、情報を共有しながら進めていきたい。

水越会長 1年間、この会議を進めるにあたって自主的に意見をいただき、まとめていただいたことに感謝申し上げます。ぼく自身は平成23年の現行計画を立てる前年度から携わった。評価での経験も踏まえ、みなさんと相談しながら、極めて合理的でよくできたなと思っている。いずれ我々の手を離れ、いろんな方に読んでもらうには分かりやすくなったと思う。みなさんのおかげだと思っている。他の学識の先生や委員に助けてもらってここまでこられたと思っている。現行計画は時代の区切りでいうと、震災の起こった直後だった。それが5年経ち、新しい計画が立てられた。さらに5年後にはオリンピック・パラリンピックがある。それがすべてではないことは委員の認識にもアンケート結果にも出ていたのだが、5年間という区切りで考えていくことはよいのだろうと思う。アンケート結果でオリンピック・パラリンピックの成果として多言語化が進むという回答が多かったことは奥ゆかしく、印象に残っている。

計画書の文章には新しいことも盛り込まれていると思うので、区の方や関係する方に実行していってもらえたらと思っている。自分は事業レベルで考えてきた立場なので、今回みなさんと会えたことは大変よい機会であり、これからの活動で協力できることがあれば、協力していきたいと思っている。

5年後に改定がある場合には、一種の情報化で紙の文章が半分に減っていて、電子的な文章で読むことができる機会があると思う。また委員の一部は外国人かもしれないし、10代20代の方がいるかもしれない。今回以上に女性が増えているかもしれない。これまでになかった変化は起こっていた方がよいだろう。

感想が大半だったと思うが、表記や評価方法についての意見もあったので、それを踏まえて来年度まで含めて検討していただいたい。

他に意見はあるか。

小野澤委員 質問があったことに回答したい。資料が冊子になった段階で有償頒布かという話があるが、印刷実費に基づき価格が決まる。冊子を購入する場合には購

入いただく必要があるが、ホームページに公開されており、図書館にも置かせてもらっている。

エリア全体を文化財として指定するといった意見があったが、区としては、自治体として景観形成団体への登録制度に手を上げており、了承される段階だ。区として景観に取り組めると思う。

資料については不要だと思うので、これについては取り組んでいきたいと思う。

田中委員 パブリックコメントに対する回答のなかで一点だけを指定するのではなく、範囲を定めて指定というのは「難しいが参考にする」という回答だが、現実性はどれほどか。

事務局 教育委員会に確認したい。

5 その他

今後のスケジュールについて説明が行われた。

6 閉会